

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第75回 コミットのあつた会議

会議の参加者全員が会議に集中しコミットしているかをチェックするのが上司の仕事です。発言を促すために声掛けをするなどしましょう。

会議は話し合う場
声は掛けて発言促す

会議が始まったら、参加者全員が会議に集中し、本来の意味で参加しているかどうかを、上司としてチェックしましょう。当たり前のことですが、会議とは話し合う場です。つまり、話を聞いているだけで、最終的な決定事項を知ることが目的ならば、わざわざ会議に参加しなくても、後で議事録を読めば十分です。会

議の参加者で一番無責任な行為は、発言しないことです。

会議に参加しているからには、きちんとコミットすることが求められます。そこで上司は、参加者全員が発言しているか、集中していない人はいないかなどに気を配ることも忘れないでください。

もし、発言していない部下がいたら、「○○さん、あなたはどう思う？」と問い掛けてみるべきです。部下

が会議に集中していなければ、問い掛けることによつて、集中するようになるでしょう。それから、いい意見を持っていても、自分から発言しないというタイプもいるので、その時は名指しで問い掛けてください。このように参加者全員に目を向け、バランスを取りながら、会議を進行するのも、上司としての心得の一つと言えます。

上司の演説はNG
会議では皆が立場平等

また、上司がいついつい会議で演説をしてしまうことも多いので、注意が必要で、全体のバランスを取る



どころか、上司自身が話せばかりいのは大問題です。会議とは名ばかりで、ワシマン社長が一方的に話して、社員一同が「うん、うん」と聞いているなんていうの

は、まったく生産性のないムダ会議です。

ですから、自分の立場が上であればあるほど、一方的に話さないうちに意識することが必要です。誰もあなたの話を中断することができず、結果として意味のない会議になってしまったのでは、お話になりません。会議においては、立場は平等であるということも、共通理解としておくべきです。社長であれ、役職のついていない社員であれ、同等の立場で話し合うからこそ、意味があるということ、を絶対に忘れないでください。

『上司のルール』より転載